

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要な まちづくり の課題 (めざすべき姿)	誰でも働きながら子どもを産み育てることができる	
	仕事と子育ての両立を支援する	No.14

年度	平成27年度
責任部長	福祉こども部長
主担当課長	子育て支援課長
関係課	保育課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値						目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後	
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後	
仕事と子育ての両立ができていると思う人の割合(%)		→	64.6 73.5	73.1 73.1	65.8 73.6	68.8 70.9	69.0	73.5	69.2 74.6	
地域の保育サービス(ボランティア、NPO、コミュニティビジネスなど)の利用者数(人)		→	— 28,240	— 32,165	— 43,536	— 53,577	—	—	— 28,418	
男女別の育児休暇の取得率(%)	①男性	→	0.9	1.2	0.0	0.0	2.3	0.0	8.3	
			0.0	1.0	0.0	3.0			13.7	
	②女性		83.3	75.6	86.0	84.9	96.6	100.0	87.4	
			100.0	97.3	94.9	90.9			100.0	
出産・育児による退職後、希望の職場・職業に就いた人の割合(%)		→	45.0 51.3	44.3 49.1	46.7 49.4	51.3 52.9	45.3	51.3	50.2 55.9	

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

「子育て支援」が国においてもメインテーマになっており、本年度より子ども・子育て支援新制度が始まった。少子化の進行や核家族化など社会情勢の変化や、ライフスタイルの変化、職業・就労形態の多様化などにより、仕事と子育てを両立できるよう支援する環境整備、意識高揚の必要性がますます高まっている。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	 改善傾向 「地域の保育サービス（ボランティア、NPO、コミュニティビジネスなど）の利用」、「出産・育児による退職後、希望の職場・職業に就いた人の割合」は現状値で中間目標を達成している。「仕事と子育ての両立ができていと思う人の割合」は年によりばらつきはあるものの中間目標は達成している。「男女別の育児休暇の取得率」については女性については中間目標を達成しているが、男性については目標をクリアできていない。引き続き各種事業を展開していく必要がある。
------	---

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果(事業群①)		長期成果(事業群②)		長期成果(事業群③)		長期成果(事業群④)	
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。						
評価							
次年度の改善計画							

 総合計画推進市民会議による現状評価(※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)」の評価書)から転記)

評価	 停滞	指標3の男性の育児休暇取得率が目標値から大きく乖離していることを重視する。制度はあっても育児休暇を取得しづらい職場の環境が伺える。他の指標は、目標値に向かって順調である。
----	---	---